

NECソリューションイノベータ

シンクライアント システムでも、ランサムウェアや人為ミス対策として
ユーザー データのバックアップは必須

Commvault®の導入で、数万台規模のVDI環境のバックアップ基盤と運用に
掛かる総コストを77%削減

NECソリューションイノベータは、NECグループのシステム インテグレーターとして、先端ICTを活用した幅広いSI/サービスを提供しています。1975年に前身となる日本電気ソフトウェアが設立。NECソフトの名でも知られた同社は、2014年にNECのソフトウェア グループ各社と統合して現在の形となりました。

同社は、NECグループの社会ソリューション事業の中核を担っており、官公庁や製造業を中心に専門的なソリューションを展開しています。クラウドやビッグデータ、AI、IoTといった先進技術の研究/開発にも積極的で、幅広く高度なセキュリティ ソリューションでも定評があります。

NECグループ自身もNECソリューションイノベータのユーザーであり、300超の社内システムや2,500台を超えるサーバー群のほか、3万ほどのクライアント環境などを含めて、統合的に運用管理を担当しています。

NECグループでは、早くから働き方改革に取り組んでおり、2006年ごろにはエンドユーザーのデスクトップ環境をシンクライアント化し、テレワークなどの施策を実現してきました。現在では「仮想PC型シンクライアント」、いわゆる「VDI (Virtual Desktop Infrastructure)」環境を全社的に展開しています。

VDIは、仮想化環境に構成したデスクトップOSをネットワーク越しに提供する技術ですが、従来のPCと同様に、データが破損したり、誤操作で失ったりしてしまうトラブルは発生します。例えば作成した重要なファイルをファイル サーバに保存せず、デスクトップだけに置いた状態で消失させてしまえば、社内の業務が停滞し、多大な機会損失が発生する可能性があります。

そのためVDIにおいても同じくデータ保護が求められ、必要なファイルを迅速にリストアできるバックアップ システムが重要です。実際、2006年のサービス リリース時からバックアップ サービスが提供されていました。

NECソリューションイノベータでは、2017年より、社内のVDI環境をWindows 7からWindows 10へ段階的に移行するプロジェクトを進めています。それにあわせてVDIに適したバックアップ基盤のリフレッシュを計画しました。



「働き方改革としてテレワークを促進するためには、安心して利用できるシンクライアント環境が必要であり、そのためにはバックアップは欠かせません。

Commvault は、高速かつ安定的に稼働しており、運用も容易です。利用者は Web ブラウザを使った簡単な操作でファイルをリストアできるようになりました。

従来のバックアップ システムでかかっていた運用コストと比較すると、製品価格も含め約 77%ものコスト削減効果が得られています」

NECソリューションイノベータ株式会社
NIS事業本部 プラットフォームサービス
事業部 PF企画グループ 統括マネージャー
井戸川 誠 氏

NEC

NEC Solution Innovators, Ltd.

業界

情報サービス

所在地

東京都江東区新木場

URL

www.nec-solutioninnovators.co.jp

課題

- 既存のWindows 7の仮想PC型シンクライアント システム (VDI) 環境を、Windows 10に移行するにあたり、将来10万台規模になる仮想PCのバックアップ運用が確実に実行できる新しいバックアップの仕組みが必要。そこで、従来のシステムに比べ利用者の利便性は向上させながら、バックアップ/リストアにかかる運用負荷を軽減し、運用コストを削減できるシステムを計画。

従業員数

- 1万3,181名 (2017年4月1日 現在)

ソリューション

- Commvault のエンドポイント データ保護ソリューションを導入し、仮想PC型シンクライアント システム (VDI基盤) の自動バックアップとセルフ リストアが行える仕組みを実現

メリット

- バックアップ基盤と運用に掛かる総コストを77%削減
- PCあたり1回3分程度で完了する自動バックアップ
- 99.97%のバックアップ成功率
- 運用管理を効率化する各種機能によって10万台規模のバックアップ運用に耐えられる基盤の確立
- 誤操作やランサムウェアの攻撃で業務データのリストアが必要な場合は、管理部門の介在なくPC利用者が自分で容易にリストアすることが可能に
- データの重複排除率は想定以上の85%を実現

利用者のセルフ リストア、導入/構築/運用の自動化およびコストを評価してCommvaultを選択

同社は近い将来、NECグループのVDIを4万~10万台規模に拡張する計画を持っています。そこで、バックアップ基盤のリフレッシュにおいて同社が目指したのは、利用者の利便性と10万台規模のバックアップ運用に耐えられる製品を採用することでした。Commvaultで、下記4つの観点から製品評価が行われました。

- 利用者の利便性 – PC利用者がデータのリストアを管理部門に依頼してから実際にファイルがリストアされるまでの“待ち時間”をなくすために、利用者自身でリストアを行えるシステムが必要でした。バックアップ方式としてストレージ機能を用いることも検討しましたが、この方式ではユーザ自身が必要なファイルをリストアすることができません。Commvaultの場合、Webブラウザを使って利用者自身でデータ取り出すことができるので、以前のシステムと異なり管理者の対応が不要です。
- 導入と構築 – Commvaultにはバックアップ対象のポリシーなどを自動で作成できる機能や、バックアップ設定などを組み込んだインストーラーをパッケージ化できる機能があります。これにより、仮想PCの作成時に同社のVDI配布ツールと連携させてサイレント インストールでPCに自動的にセットアップできるので、Commvaultのクライアント配布や初期設定を行う手間がなくなり、数万台規模のバックアップ システム構築をスムーズに進めることができました。
- 運用 – 数万台規模のバックアップであっても、GUIでバックアップ処理の稼働状況やエラーなどの発生状況が見やすく、またレポート機能も充実しているところも特長で、運用報告がしやすくなったと評価されています。
- コスト – 以前の製品は、導入時に永久ライセンスを購入し、1年ごとに保守費が発生する料金体系でした。Commvaultには、サブスクリプションライセンスが用意されており、年間単位でライセンス使用権を購入することが可能です。サブスクリプション ライセンスの場合、CAPEX（設備投資）ではなく、OPEX（運用費）として計上することができ、ライセンス管理が容易になりました。

重複排除率 85%、99.97%のバックアップ成功率、そして77%ものコスト削減効果

同社では2018年3月現在、6千台規模のバックアップが実施されています。そして同年10月までには、新しいVDI環境に移行したWindows 10 クライアント計2万台のデータが、Commvaultによって保護されます。

現状の運用では、PCごとに一週間分のバックアップ データが保存されています。約6千台分のバックアップ データ合計72 TB分が、Commvaultの重複排除機能によって10 TB程度のストレージの実使用量に収まり、予想を上回る85%の重複排除率を達成しています。PC 1台あたりのデータ量は、メール データなど10~20 GB程度。増分データだけを処理する一回のバックアップは、PC利用者が意識することなく3分未満で終了します。エラーが出ると確認等の対応が必要になりますが、エラーはほとんど発生せず、あっても一日に1~2台程度です。このように、Commvaultの特長である管理者負荷の少ない自動バックアップ/リストア運用、導入の容易性などで、同社では管理要員を増やすことなく、数万台規模のバックアップを実施できる基盤を整えました。

今後の予定: 社内サービス向けからお客様向けのサービスへの展開

同社では、VDI環境におけるCommvaultを用いたエンドポイント バックアップの設計/運用のノウハウを社内に蓄積し、NECグループとしてお客様向けのサービス、ソリューションに活かしていく考えです。

